

〈解答〉

- ① 1 縄文土器
2 ウ
3 須恵器
4 (1) イ (2) 文化：天平文化
5 エ
6 〔例〕天皇が位をゆずって上皇となったのちも行った政治。
7 ア

配点 ① 5, 6は各2点, 他は各1点 10点満点

〈解説〉

- ① 1 この時期の土器は、厚手で、低温で焼かれたため黒褐色をしており、表面に縄目のような文様がつけられていることが多いので、縄文土器と呼ばれる。
- 2 中国の歴史書「後漢書」には、1世紀の半ばに現在の福岡平野にあった倭の奴国の王が、後漢に使いを送り、皇帝から金印を授けられたと書かれており、江戸時代に志賀島（福岡県）で発見された「漢委奴国王」と刻まれた金印は、そのときのものと考えられている。ア殷は紀元前1500年ごろ、黄河下流にできた中国で最古の王朝、イ秦は紀元前221年、始皇帝が建てた中国最初の統一国家、エ唐は618年に中国を統一した王朝である。
- 3 5世紀ごろ、混乱の多い中国や朝鮮半島から、日本に移住してきた人々を渡来人という。渡来人は、かたい土器である須恵器や鉄器の製造や機織、漢字など、毎日の生活に役立つ多くの技術を伝えた。さらに、大和政権においても外交や政治、財政などで活躍した。6世紀には、仏教や儒教を伝え、日本人々の信仰や文化に大きな影響を与えた。
- 4 (1) 平城京は710年、元明天皇の命令で、現在の奈良市につくられた都である。784年、桓武天皇が長岡京（京都府）に都を移すまで75年間続いた。唐の都長安〔西安〕にならってつくられ、東西は外京を含め約6 km、南北は約5 kmの広大な都であった。
- (2) 奈良時代、律令体制のもとで役人となった貴族が、都に集まって住むようになったことで、平城京を中心に、天皇や貴族による華やかな文化が栄えた。この文化は、遣唐使などによって中国からもたらされた国際的な文化の影響が強く、聖武天皇の時代に最も栄えたため、当時の元号から天平文化と呼ばれる。
- 5 8世紀末から9世紀にかけて、朝廷は、支配に従おうとしない東北地方の蝦夷に対してたびたび大軍を送り、特に征夷大將軍になった坂上田村麻呂の働きもあって、東北地方に支配を広げた。
- 6 院政とは、天皇に位をゆずった上皇が政治を動かす政治体制である。院と呼ばれる上皇の御所で政治を行ったので、このように呼ばれる。制約の多い天皇と異なり、

上皇は自由な立場だったので、院政では先例にとらわれない政治が行われた。

- 7 アは、「幕府を開いた」が誤り。平治の乱に勝利した平清盛は、武士として初めて政治の実権をにぎることに成功し、ついには太政大臣という最高の官職についた。また、娘を天皇と結婚させ、その子を天皇にし、朝廷との関係を深めた。平氏一族はいずれも高い官職や位につき、西国を中心に広大な荘園と多くの国々を支配した。また、日宋貿易に力を入れ、航路の安全を確保するために瀬戸内海の航路を整え、兵庫（神戸市）の港を整備した。